

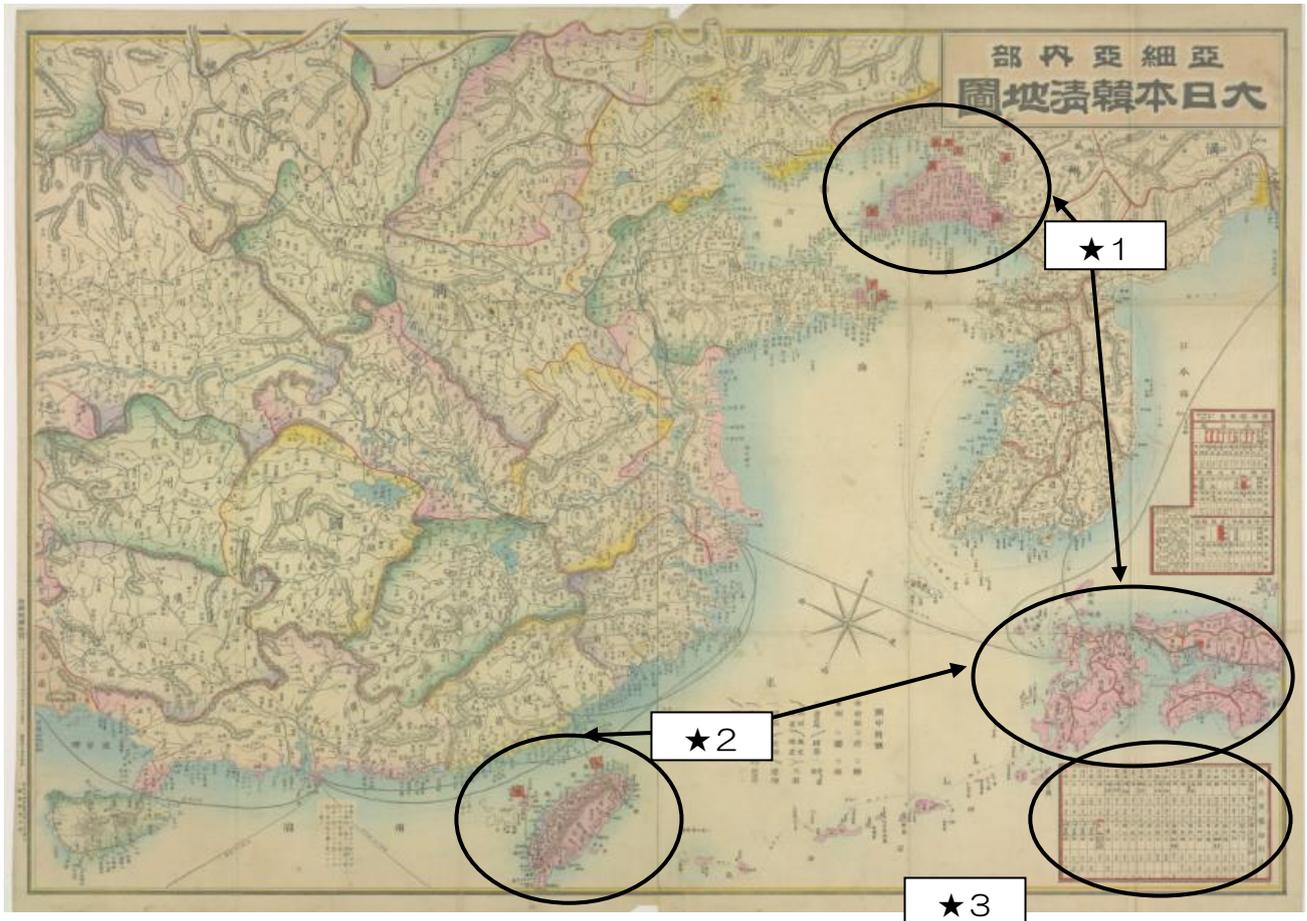
授業で使える図書館所蔵地図

NO. 31 『亞細亞内部大日本韓清地図』

作成年：1894（明治27）年

サイズ：53×74cm

作者：嵯峨彦太郎



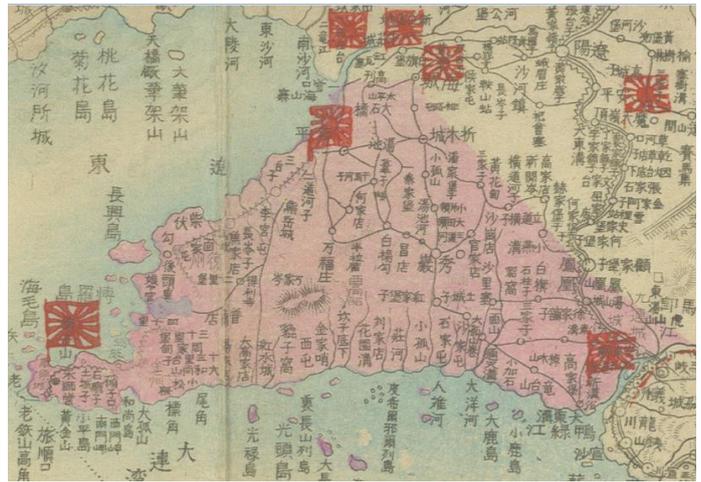
【解説】 日清戦争前後のアジアの様子

19世紀の地理観をよくあらわしている東アジアの地図である。特に、日本、朝鮮、清、満州の領土関係があらわされ、帝国主義となった日本の領土が拡大されていることがうかがえる。

清は、東アジアや東南アジアなどへ侵略を進めるイギリスやフランスとの争いに敗れ、アジアでの地位に変化がおこりはじめた。また朝鮮を巡る日清の対立が高まり、1894年に日清戦争で清は日本との戦いに敗れた。清は下関条約で朝鮮の独立を認め、遼東半島や台湾などを日本へ割譲するが、遼東半島は日本に対する欧州の三国干渉により還付されている。このできごとは、日本国内では大きな屈辱として扱われ、ロシアに対抗しようとする思いを大きくしていくきっかけにもなった。また、三国干渉後にロシア、イギリス、ドイツ、日本、フランスなどの列強は次々と清の領土を租借し、朝鮮は1897年に大韓帝国として独立を果たした。この独立により、朝鮮半島史上初めて他国の干渉から解放されることになった。

★1 遼東半島と日本

下関条約の第2・3条に「清国は遼東半島、台湾、澎湖諸島など付属諸島嶼の主権ならびに該地方にある城壘、兵器製造所及び官有物を永遠に日本に割与する。」とある。当時日本は、この遼東半島を領土とし、大陸進出の足掛かりを築こうとしていた。また、遼東半島から朝鮮半島までを鉄道で結び資源を日本に輸入をしようとしていたことがうかがえる資料です。



★2 台湾と日本

台湾も★1と同様に日本の領土となった。台湾も資源・貿易の中継地などの面で日本の領土とすることに大きな利益があった。



艦名	排水量	速力	大砲	小砲	魚雷	機関	備考
日清	1000	18	140	10	2	蒸気	
海門	1000	18	140	10	2	蒸気	
天龍	1000	18	140	10	2	蒸気	
流鏑	1000	18	140	10	2	蒸気	
武蔵	1000	18	140	10	2	蒸気	
葛城	1000	18	140	10	2	蒸気	
高城	1000	18	140	10	2	蒸気	
比叡	1000	18	140	10	2	蒸気	
金剛	1000	18	140	10	2	蒸気	
秋津	1000	18	140	10	2	蒸気	
浪速	1000	18	140	10	2	蒸気	
吉野	1000	18	140	10	2	蒸気	
松島	1000	18	140	10	2	蒸気	
敷島	1000	18	140	10	2	蒸気	
龍田	1000	18	140	10	2	蒸気	
香取	1000	18	140	10	2	蒸気	
小笠原	1000	18	140	10	2	蒸気	
石川	1000	18	140	10	2	蒸気	
三笠	1000	18	140	10	2	蒸気	

★3 現在軍艦細別表

当時の日本の軍艦の数や、排水量や大きさ、大砲の設置数を一覧にしたものになる。海洋国である日本が欧米列強に対抗し、海軍を充実させていくことで富国強兵を目指したことがうかがえる資料である。当時、日本の海軍は敷島、松島などの軍艦によって支えられていたことがわかる。太平洋戦争では航空母艦が主流になるが、このころは海戦を制するには、海軍の数と装備が重要であると考えられていた時代であった。

【利用の例】

○ 日清戦争の追究資料

→★3に着目させ、日清戦争の中で海戦を優位に進めることができた根拠として利用することができる。軍艦の数だけでなく、大砲を装備している数などと同時に、当時の軍艦の写真を提示することでより効果的に軍艦の重要性と強さを理解することができる。

→なぜ日本が海軍の拡張に力を入れたのか、下関条約の賠償金の内訳や、★3を関連付けて考えることができる。海軍の増強が、日本の軍隊を強くしていくことにつながることを理解できるようにする。

○ 下関条約の追究資料

→下関条約の条文から、遼東半島や台湾を探す。また、日本と同じ色が塗られていることや、日本の国旗がたっていることから日本の領土となっていることを理解させたい。

→遼東半島や台湾が東アジアの中でどのあたりにあるのか、地図を使って理解させたい。追究過程では、「なぜ遼東半島や台湾が必要であったのか」と発問し、資源や鉄道の有無、貿易を行いやすいことなどを視点として、地図から生徒が読み取っていけるようにしたい。

→沿岸部を領土としたことで、貿易だけでなく今後内地（満州）へと領土を拡大していくことも想起し、次時へとつなげていきたい。